

サンプル／出題傾向と出題予想

2級 建築施工管理

施工 躯体 No.36～No.50

学科試験

◎は、予想が的中したものです。

	H30 重点	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	
◇コンクリート工事		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	
コンクリートの調合	○	◎	○							
空気量・スランプ・単位水量	○	◎		◎		◎	◎		○	
砂利・骨材	○	◎	◎	◎		◎	◎		○	
単位セメント量	○		◎	◎			○			
コンクリートの骨材					○					
打込み速度・流動性	○			◎		◎		○		
コンクリートの打込み	○	◎	◎	◎	◎		◎	○		
コンクリートの養生	○	◎	◎	◎	◎		◎	○		
セメント種別ごとの養生期間	○	◎		◎	○					
◇鉄骨工事		◇	◇	◇	◇	◇	◇		◇	
高力ボルト摩擦接合	○			◎		◎	○			
鉄骨の錆止め塗装						○				
鉄骨の工作	○	◎	◎		◎		◎		○	
鉄骨の建方計画	○	◎		◎	○					
鉄骨建方時の留意事項	○	◎	◎	◎	○					
◇木工事		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	
木軸組工法の継手	○	◎	◎		◎	◎		○		
木軸組工法の仕口	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎		○	
木造解体	○		○							
鉄筋コンクリート造の解体		○								

サンプル／出題傾向と出題予想

2級 建築施工管理

施工 仕上げ No.51～No.65

学科試験

◎は、予想が的中したものです。

	H30 重点	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	
◇防水工事		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	
アスファルト防水の留意点	○				◎	◎		○		
アスファルト防水の張付け	○			◎			◎	○		
加硫ゴム系シート防水		◎	◎				◎		○	
ウレタン防水	○			◎					○	
シーリングの種類	○				○					
シーリング工事の留意事項		◎	◎			◎		○		
◇屋根およびとい工事		◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	
屋根工事の工法	○		◎			◎			○	
雨どいの取付	○			◎				○		
折板葺き		◎			◎		○			
◇金属工事		◇	◇	◇	◇	◇				
軽量鉄骨壁下地のランナー	○	◎		◎		○				
軽量鉄骨壁下地のスタッド	○	◎	◎	◎		○				
軽量鉄骨壁下地の補強材	○	◎	◎	◎		○				
ステンレス鋼板の表面仕上げ					○					

サンプル／これだけ項目集 建築施工管理 2級学科

[躯体 NO. 36～No. 50]

◇コンクリート工事

2建築 学科 H29-44 H28-44 H27-44 H25-44 H24-44 H22-44
砂利・骨材

川砂利と碎石は、それぞれが所定の品質を満足していれば、混合して使用してもよい。
細骨材の粗粒率が大きい場合には、細骨材率を大きくする。
細骨材率が大きすぎると、所定のスランプを得るための単位水量を多く必要とする。
細骨材率が大きすぎると、流動性の悪いコンクリートとなる。
乾燥収縮によるひび割れを少なくするためには、粗骨材率を小さくするのがよい。

◇鉄骨工事

2建築 学科 H29-48 H28-48 H27-48 H26-48
鉄骨建方時の留意事項

複数の節や多スパンからなる鉄骨の建入れ直しは、建方途中でも行う。
建入れ直し用のワイヤロープを取り付けるプレートは、工場製作段階で溶接しておく。
架構の倒壊防止用ワイヤロープを、建入れ直し用に兼用した。
玉掛け用ワイヤロープでキンクしたものは、キンクを直しても使用できない。
寸法の長い梁の揚重の際には、かいしゃくロープを補助として用いることとした。
建方精度の測定は、温度の影響をできるだけ避けるため、早朝の一定時間に実施した。
外周に養生シートを張った鉄骨骨組の倒壊防止の検討に用いる風荷重は、風上の値とした。
油が付着している仮ボルトは、油を除去して使用した。

◇木工事

2建築 学科 H29-49 H28-49 H26-49 H25-49 H23-49
木軸組工法の継手

せいが異なる胴差どうしの継手は、柱心上で腰掛け鎌継ぎとし、短ざく金物当てボルト締めとした。
土台の継手は、腰掛けかま継ぎとし、上木となる方をアンカーボルトで締め付けた。
束立て床組の大引の継手は、床束心で鎌継ぎとし、釘打ちとした。
根太の継手は、大引の心で突付け継ぎとし、釘打ちとした。
隣り合う根太は、その継手位置をずらして割り付けた。
洋式小屋組の真束と棟木の取合いは、棟木が真束より小さかったので、短ほぞ差し割くさび締めとした。

[仕上げ No. 51～No. 65]

◇防水工事

2建築 学科 H29-52 H28-52 H25-52 H23-52
シーリング工事の留意事項

2成分形シーリング材の練混ぜは、機械練りとした。
シーリング材と被着面の接着性を良好にするため、プライマーを塗布した。
目地への打ち始めは、目地の交差部あるいはコーナー部より開始した。
ノンワーキングジョイントでは、3面接着で施工した。
シーリング材の充填深さは、バックアップ材またはボンドブレイカーを用いて調整した。
目地底にシーリング材を接着させないため、ボンドブレイカーを用いた。
裏面に接着剤が付いているバックアップ材は、目地幅より**1mm程度小さい幅**のものとした。
充填箇所以外の部分に付着したシリコン系シーリング材は、**硬化後**に取り除いた。
シーリング材の硬化の状態は指触で、接着状態はへらで押えて確認した。

◇屋根およびとい工事

2建築 学科 H28-54 H25-54 H22-54
屋根工事の工法

繊維強化セメント板（スレート大波板）葺において、スレート大波板の鉄骨母屋への留付けにはフックボルトを用いた。
銅板平葺において、吊子の留付けにはステンレス釘を用いた。
粘土瓦葺において、のし瓦や冠瓦の緊結には樹脂被覆された銅線を用いた。
金属製折板葺において、受梁へのタイトフレームの取付けには**アーク溶接**を用いた。
銅板平葺（一文字葺）において、葺板の留付けには**はぜ**を用いた。
金属製重ね形折板葺において、折板のタイトフレームへの取付けに固定ボルトを用いた。

◇金属工事

2建築 学科 H29-55 H28-55 H27-55 H25-55
軽量鉄骨壁下地の補強材

そで壁端部は、開口部の垂直方向の補強材と同じ材料を**スタッド**に添えて補強した。
出入口開口部の垂直方向の補強材は、上下のコンクリートスラブに固定した。
出入口開口部の垂直方向の補強材の上部は、**梁下、床スラブ下**に固定した。